

題目 The Influence of Group Member Status Difference and Group Size in a Group Decision-Making Context

集団意思決定における集団内地位格差と集団サイズの影響

氏名 白木 愛

指導教官 Alan S. Miller

一般に個人による意思決定よりも集団による意思決定のほうが信頼性が高いとされている。集団とはしばしば内部に地位格差を含むものであり、集団意思決定は高地位者の意見と多数派の意見の2つによって影響を受けるという見解がある。これら2つの相互関係は明確に定義づけられていない。直感的には、集団内の低地位者の数が増えれば高地位者の影響が少なくなると考えられるが、先行の思考実験によってそのように結論付けるのは時期尚早であるとされた。

その思考実験では低地位者の数の変化と高地位者の影響力の変化の関係に注目し、複数の裁判官(高地位者)と裁判員(低地位者)で構成される合議体が判決(集団意思決定)を下す状況を扱った。その際に高地位者の影響力が低地位者よりも高い、と言う前提のもと高地位者の1票にいくらかの重みを付けた。また同点になった場合の対応として、判決されない、どちらかに半々の確率で決定する、高地位者の多い方を採用する、の3条件を設けた。これらの条件を組み合わせる思考実験を行なった結果、集団サイズが大きくなるに従って高地位者の影響が波型の降下線をたどることが見られた。このことは確率計算上、真であると言える。

それでは実際の実験でもそれらは見られるのか。我々は任意の集団内地位格差を持たせた3・4・5人グループを設定して集団意思決定実験を行った。ある課題に対してまず個人で解答してもらい、続いて同じものを集団で討論のうえ解答してもらった。結果は自明な解を除いたアイテムで見た場合、思考実験で証明されたように集団サイズの変化に合わせて高地位者の影響は波型での変化を見せた。つまり3人グループと4人グループでは4人グループの方が、4人グループと5人グループでも4人グループの方がそれぞれ高地位者の影響が低かった。これにより思考実験で得られた知見は実際の集団意思決定場面でも観察されることがわかった。